

登録コード	HM105802	開講年度	2026				
授業題目	分子病態学特別研究				担当教員	山本 雄介	
英文授業名	Research Thesis in Molecular Pathophysiology				副担当		
単位数	10	講義期間	通年	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	大学院生（博士課程）
講義室			授業形態	演習	備考		
信大コンベンション	非該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	(授業の達成目標)	
	2026HM医学分野初, 2025HM医学分野初						
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能				⇔	分子病態学を理解し、正しく実験を計画・実施・解釈する能力を身につける。	
(2)詳細/Detailed information	分子病態学分野において、実験ならびにデータ解析を実施する技術を習得する。仮説の提示からそれらを実証するための実験の実施もしくはデータ解析を行い、実験・解析データの論文化までを実施する能力を身につける。						
(3)授業の概要/Overview of course	分子病態学において、がん発生ならびに進展に関わる様々な要因を明らかにするために、分子生物学、生化学、バイオインフォマティクス等を用いることで、研究室で実際に研究を行う。それらをもとに、研究に必要な技術や思考能力を養い、論文の作成につなげる。						
(4)授業計画/Course plan	個別の研究テーマを設定して、指導教官とともに研究を遂行する。						
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	評価は、「研究テーマに基づく学会発表ならびに学位論文の作成状況」等の基準から行い、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」。以下、要件を満たす毎に「かなり上にある（優）」、「やや上にある（良）」、「水準にある(可)」の順で判定する。						
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	特になし						
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	随時質問を受け付ける。メールの場合はyuyamamo@ncc.go.jp						
(8)授業の形式/Course format	個別研究指導						